

2011年6月14日

素材広場 第7期インターン生

ニックネーム じょうこさい

最終報告書

研修目的 今後、就職活動を行う中で、自分にはどのような強み・弱みがあるのかを実際に働こうえで再発見する。また、震災の影響を受けた地元いわきに対して今自分は何を考え、行動すべきかを気づく場とする。

研修場所：山際食彩工房



内容 ・里芋の下ごしらえ（自衛隊の炊き出し用）
・ごごみ洗い

自衛隊の炊き出しに使用する 100 個という大量の里芋の皮をむき、半月切りにしました。慣れない作業に悪戦苦闘しつつ、自分の包丁の技術がないことに改めて気づかされました。

昼食時はこれでもかというくらいの量、しかもおいしいご飯をご馳走になりました。こちらにも震災の影響で内定が取り消され、緊急雇用人材として働いている方がいらしたのですが、黙々と一生懸命作業をしている姿が印象的でした。

研修場所：南相馬

内容 ・自衛隊への炊き出し（ざくざく煮、卵焼き、お漬物）
・被災地視察

普段お世話になっている自衛隊の方々に対して、何か感謝の気持ちを現せないかということで実現したのが自衛隊への炊き出しでした。皆さんとても礼儀正しく、一人一人が私たちに対して「ごちそうさまでした。」と言葉をかけてくださり、仕事柄が出ているように感じました。



また、自分は担当ではなかったのですが、炊き出しを行うまでの準備の段階で、メニューの決定、食材や調理用具の買い出し、現地での段取り確認等さまざまな作業がありました。自分の担当ではないからといって段取りを把握していなかったため、当日になってス

ムーズに作業が進行できない点が多少ありました。



自衛隊への炊き出し後、南相馬の被災地視察に行きました。そこはとても人が最近まで生活していたとは思えないくらい悲惨な状況で、乗上げた船や大破した車、1階部分が津波によって流された家屋など自然の驚異を目の当たりにしました。あの地震さえなければ、こんな光景を見ないで済んだ、多くの人々がつらい思いをしなくて済んだ。

でも、被害のない自分達がとにかく前に進み、被災者を後押ししなくてはならないと現場を見て、改めて実感しました。



研修場所：新潟古町、喜多方

内容 ・福島特産品の販売



新潟古町

5月28日に喜多方、毎週土日に新潟古町で物販を行いました。ここでも商品の知識はもちろん、見栄えの良い商品・ポップの並べ方等を学ぶことができ、良い経験となりました。物販にはさまざまな福島の特産品が並び、まだまだ広く知りわたっていない興味深いものがたくさんあり、さるなしに至っては自分自身存在すら知らずお客さんも始めて耳にする方が多く、まだまだ認知度が低いように感じました。

お客さんも珍しい特産品に興味を持ってくれたり、福島を応援する気持ちで購入してくれたりとさまざまでした。中には、福島に住んでいたことがある人や家族、友人、知人が福島にいる方など福島に関係がある人もいて、皆さん原発問題を中心にとっても心配をしていました。



喜多方にて白バイ乗車☆



喜多方

研修場所：リステル猪苗代

- 内容
- ・物産販売（素材広場）
 - ・物販ブース統括（元気玉プロジェクト）

リステルは自分が担当となった仕事ですが、まさに「仕事とはこういうものだ」という一部を経験できたように思えます。以前、貝沼さんの全体研修時の言葉、振られた仕事に対しては『深く考える癖をつける！悩んでるふりしない！聞く！調べる！』を意識したり、段取りの大切さを学んだり、「責任」というなかで仕事をするプレッシャーや楽しさを実感できたり、達成感を得たりと社会人になるうえで今後経験しておかなくてはならない仕事に携わられたように感じます。



研修場所：元気玉プロジェクト本部

- 内容
- ・かわら版への折り込み作業
 - ・物資仕分け、陳列

全国から集められた支援物資が元気玉プロジェクト本部に保管されており、種類としては日用品や衣類など様々ですが、その中でもおもちゃの仕分けを主に行いました。新品のボードゲーム等がケース単位で届けられていたり、中古で見ると愛着のあるようなぬいぐるみやプラスチックの玩具など段ボールが山積みになっていたのですが、とにかく膨大な数に仕分けを行うのが大変苦労しました。また、おもちゃと一緒に子供の手書きによる被災者に向けた応援メッセージが書かれたメモ帳が封入されていたりと何とも心温まるものでした。



研修場所：五色沼

- 内容
- ・五色沼トレッキングツアー参加



五色沼で行われたトレッキングツアーに参加し、豊富な植物と色彩豊かな沼をバックに裏磐梯の自然を満喫しました。中には、裏磐梯で避難生活をしている方も参加しており、時間を有効に利用し積極的に活動する生き生きとし

た姿に感銘を受けました。

会津地域研修



今回の研修でたくさんの人に出会いました・・・共通している点

- ・地域を想う気持ちが強い
- ・情報に強い（人とのつながり、現場の状況・数値）
- ・とにかくいろんな事に参加、体験したいという気持ちを持っている

復興に大きいも小さいもない。国家規模や地域規模、個人規模とさまざま。自分ができることを、自分の得意なこと好きなことを継続的に行うことで、相手は何千人、何百人だろうと一人だろうと、自分と相手がともに笑顔になれば立派な復興と言えるのではないだろうか。

今後は 素材広場をはじめ、会津のいろんなところで観光復興に向けた動きをとっていることが分かった。いわきではどのような取り組みが行われているのかを実際に知り、そこから自分の出来ることを模索していきたい。また、普段生活するうえでも観光を意識し行動することで、いわきに住む誇りや生きがいを感じていきたい。